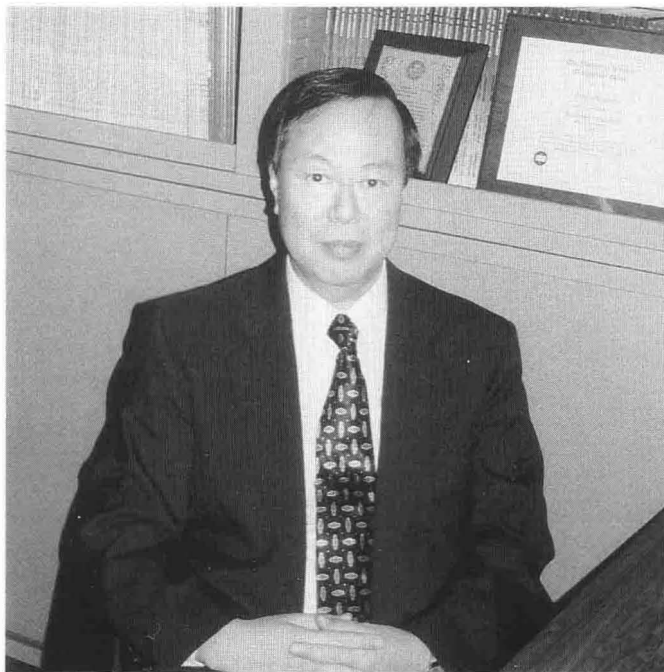


日本菌学会会長に選出されて

日本菌学会会長 北 本 豊

(平成9年度～10年度)



この度、日本菌学会会員各位のご推挙により第22期会長に就任することになりました。会員の皆様の御支持を心から感謝いたします。伝統のある菌学会のさらなる発展を目指して組織を運営していく責務を考えますとき、身の引き締まる思いですが、全力を傾注する所存でございます。

日本菌学会は、菌学の発展を目指す学会であることは申すまでもなく、このことは、英文誌名「MYCOSCIENCE」によってもっとも的確に表わされております。今から4年前、宮治 誠前会長は、日本菌学会の発展のために国際化を進められました。すなわち、日本菌学会会報の英文誌化、菌学の国際学術交流推進、特に新進の研究者が海外の研究者と議論し国際感覚を錬磨する場としての国際シンポジウムの開催、菌学の国際学術組織に参画し、さらにアジアの菌学の発展に積極的に貢献することを提唱されました。そして、会員各位のご理解

により「MYCOSCIENCE」が発刊できました。本誌の発刊は菌学会会員の研究活動の向上をもたらし、国内関連学会に大きなインパクトを与えました。

私は、菌学会会長就任にあたって、日本菌学会の今後の展開において何が最重要か考えてみました。菌学会は、今から41年前に発足後、諸先達のご指導により着実な歩みを重ね、現在は約1,500名の会員を擁する学術団体に成長いたしました。学会誌はその学術活動を明晰に映す鏡であり、菌学会の歩みも日本菌学会会報に足跡をみるすることができます。顧みるとき、本会の今日までの発展にはいくつかの節目があったと思われ、4年前の第20期から今世紀末までが大きな変革期に思われます。

私は、「MYCOSCIENCE」を菌類の基礎科学および応用科学と理解しております。しかし、菌類の基礎科学を分類学、形態学、遺伝学、細胞学、分子生物学、生理学、生化学、生態学と列挙して省みるとき、分類学や形

態学領域は別格として、他の基礎研究領域はやや希薄あるいは脆弱で、欧米との遅れを感じます。また、これらの研究水準を同領域の普遍的で深化したバイオサイエンスの水準と比較するとき一層の乖離を感じます。これは、我が国では菌類の基礎科学を専門とする研究室が僅少で研究者が少ないことが背景と考えられます。菌類の応用研究における我が国の優位と対照をなすものです。しかし、最近の他分野からの多くの若手研究者の入会、大会における若手研究者の講演数の増加と領域の多様化をみると、今後が期待されます。

ところで、最近、我が国において論文の評価と連動して学会誌の評価がきわめて重視される方向にあります。昨秋、文部省は我が国の学会誌についての調査を行いました。この調査で問われたことは、学会誌の国際化の度合いと掲載論文の関連領域における貢献度であります。学会誌の編集委員のうち外国人の占める割合、掲載論文のうち外国人を著者とする論文の割合、そして学会誌に掲載された論文の海外の研究者による引用の度合い

といったもので、学会誌の国際化を評価し、研究の国際貢献度を問うものです。さらに、最近、論文の評価が大学の教官人事にまで影響を及ぼしつつあります。これらの潮流は本学会としても黙視しえないものであります。私は、「MYCOSCIENCE」を隔月刊にしてカレントコンテンツに掲載されるように図り、真の国際誌に発展させることを今期の第1の目標にしたいと考えております。このためには1年におよそ90編の掲載論文を必要とし、皆様の優れた研究成果のご投稿を期待いたさねばなりません。「誌格」が上がれば掲載論文に対する評価も向上するため投稿数の増加が期待でき、我が国の菌学研究者とその学術活動の国際的評価に好ましい影響を及ぼし、さらには基礎研究の充実に波及すると確信いたします。

第22期の発足にあたり、理事会および編集委員会を組織いたしました。浅学非才ではありますが、機動力のある組織運営を心がけて努力いたします。会員各位のご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます。